

2007.8.3

日本技術士会原子力放射線部会

「技術士法制定 50 周年記念シンポジウム」参加報告

主催：(社) 日本技術士会

開催日時：2007.7.31 (火) 10:00～17:00、場所：虎ノ門パストラル 本館 1 階「葵の間」

参加者：am 約 100 名 (会員)、pm 約 300 名 (会員が主)

内容：

午前の部

10:00～12:00 支部・部会報告会 (会員のみ)

原子力放射線部会他 4 部会及び 4 支部の報告が部会長よりあった。

原子力放射線部会では、「緊急提言」や広報活動などが主に報告された。

また、多くの部会で、会員拡大や業務独占への活動の要望が出されていた。

午後の部

13:00～13:30 主催者 (技術士会長) 及び来賓 (文科省科学技術・学術政策局長) 挨拶

13:30～14:30 東大総長小宮山氏より基調講演「知識の構造化と技術士への期待」

- ・ 日本は課題先進国であり、その改善のため、技術力を駆使し問題解決してきている。
- ・ その技術は世界に通用することから、ビジネスチャンスとなる。
- ・ 技術者は自分の問題は自分で答えをだすべきであり、知恵を絞らないといけない。
- ・ 知識が深くなり、全体を把握できる技術者がいなくなってきた。
- ・ 知識を目的に向けて構造化し、統合化することがこれから必要になる。

14:45～15:00 支部・部会総括報告

15:00～16:55 パネルディスカッション「技術士について考える」

パネラー6名：文科省課長、国交省技術審議官、大学教授、前内閣府総合科学技術会議議員、日経コンストラクション前編集長、技術士会顧問

- ・ 日本技術士会の現状説明の後、各パネラーが技術士制度について、外の目からみた、技術士像や問題点、今後の活動などについて討議された。
- ・ 概要としては、技術士を業務独占とする方向よりは、高い技術と倫理性を非常に厳しく要求される資格であるので、会計監査の公認会計士のように企業の技術監査を行う役目を技術士が担うことが良い。
- ・ 技術士は自ら社会にどのようなことが出来るか発信すべきである。
- ・ 日本技術士会は国や公的機関並びに規制改革会議の場も積極的にPRすべき。

パネラーの意見のまとめとして、技術士は難しい試験を通りながらも、技術者としての評価もあまりされていない状況でがんばっていることがわかった。最近なくなっている技術者としての品格をもっている。しかし、「座しているだけで待っていてもダメ、もっと社会にアピールすべき」との厳しいアドバイスがあった。

以上

文責 成川